

委託事業実施内容報告書
平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】
実施内容報告書

団体名:一般社団法人グローバル人財サポート浜松

1. 事業の概要

事業名称	外国人住民の自己実現とキャリア形成のための日本語教育プロジェクト
事業の目的	静岡県西部地域に在住する外国人の自己実現とキャリア形成のための日本語教育スキームの構築を目指す。そして高い日本語能力を有する外国人が多文化コンシェルジュとして、同国出身者の後輩外国人のために日常生活の情報や母国語で日本語を学ぶことができる機会の提供ができるようにし、多文化コンシェルジュの育成と彼らの実践を通して、互助共助の外国人コミュニティの構築と外国人の社会参画につなげていく。さらに、本事業を地域を構成する企業、行政、NPOなどと連携・協働することで、社会包括的な外国人に対するキャリア形成のための日本語教育支援の仕組みを確立していく。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	浜松市には現在総人口の3%となる約2万人の外国人が集住し、市は積極的に多文化共生を推進している。そのため、市やNPOが主催する日本語教室も数多くあるのだが、その多くが初級から中級レベルの日本語教育支援で留まっている。今後、外国人市民も地域社会を担う人材として社会参画を促していくには、日本人との交渉力や文章作成力など中級以上の日本語能力を習得する必要がある。また、いつまでも外国人を被支援者として支援していくのではなく、恒常的に外国人が日本語を学ぶことができるようにしていくことが求められる。さらに、外国人住民のなかには自身のライフステージに合わせたキャリア形成のための日本語教育を望む声もあるが、外国人自身のライフステージに合わせた自己実現につながる日本語教育の機関は少ない。そのため、外国人市民の社会参画と共に、彼らの自己実現につながる日本語教育の支援体制の整備が喫緊の課題となっている。
本事業の対象とする空白地域の状況	
事業内容の概要	本事業は上記の目的を果たすため、下記の内容を実施する。 ①多様な機関との連携により外国人の自己実現や社会参画に至るためのキャリアデザインの日本語教育スキームの確立を行う。 ②多文化コンシェルジュの育成を行う;多文化コンシェルジュの育成を通して、次世代リーダー候補にもなる外国人材を発掘する ③バイリンガルで学べる日本語教室の設置;多文化コンシェルジュによる母国語を活用した日本語教室の設置により、これまで直説法での日本語教室に馴染めなかった外国人のニーズに適応した日本語学習支援を行う。これにより、地域にある日本語教室への軟着陸での学習意欲の向上や日常生活上で緊急性の高い内容をすぐに学べるなどの学習ニーズ対応の充実を図っていく。 ④多文化コンシェルジュによる日本語教育シンポジウムの開催;キャリア教育としての日本語教育の体制整備の必要性について発信していく。
事業の実施期間	平成28年4月～平成29年3月（11か月間）

2. 事業の実施体制

(1)運営委員会

【運営委員】

1	西原鈴子	国際交流基金日本語国際センター所長
2	池上重弘	静岡文化芸術大学副学長
3	石塚良明	浜松市企画調整部国際課長
4	金城アイコ	NPO法人アラッセ理事長
5	堀 永乃	一般社団法人グローバル人財サポート浜松代表理事
6		
7		
8		
9		
10		



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成28年4月26日 13:30～15:30	2時間	グローバル人財サポート浜松研修室	西原鈴子、池上重弘、石塚良明、金城アイコ、堀 永乃	1. 昨年度事業の振り返り 2. 今年度事業の企画内容の協議
2	平成28年11月28日 13:30～15:00	1.5時間	グローバル人財サポート浜松研修室	西原鈴子、石塚良明、金城アイコ、堀 永乃	1. 取組1～3の事業進捗状況報告 2. 中部協働センター、西遠女子学園での国際教育での多文化コンシェルジュの活躍について 3. 取組4(シンポジウム)の企画内容について
3	平成29年3月16日 13:30～15:30	2時間	グローバル人財サポート浜松研修室	西原鈴子、石塚良明、金城アイコ、堀 永乃	今年度事業の総括と評価、課題について

(2)地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	静岡県多文化共生課とも情報共有を図り、県内在住の外国人の状況を十分に分析することにより、外国人が日本語を学びやすくなるための環境整備を行っていく。浜松市においては、多文化コンシェルジュのような地域の担い手として活躍できる外国人の社会参画の促進を共に連携して行った。中部協働センター主催の講座で多文化コンシェルジュが講師を務める体制が整った。バイリンガルを活用した日本語教室の設置運営においては、磐田市とも情報共有を図り、当該地域の外国人コミュニティの構築に資する連携体制を整えた。さらに、こうした取組の周知にあたり講座やシンポジウム開催のチラシ配布を県西部の国際交流協会(浜松、磐田、森、袋井、湖西)に協力を要請し、広い地域での情報提供につなげていった。なお、エスニックビジネスや既存の外国人コミュニティ、NPO法人、企業とも連携して、事業の充実に向けた情報の共有を図っていき、より多くの外国人が多様な学び方で日本語の習得が行えるようにしていた。
------	---

(3)中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

実 本 施 事 業 体 制 の	コーディネーターは、講師との折衝、関係機関との情報の収集・提供・共有を図り、外国人当事者が自ら発案し実践する事業として成果を見出せるようにした。また、事業の総責任者として、関わるすべての人と機関(行政・企業・学校)の連携・協働を進めていく。バイリンガル指導者として中核メンバーにあたった多文化コンシェルジュとしてのコーディネーターは、受講者である同国出身の外国人のニーズを的確に把握し、消防署や公共交通の要である企業等との連携を図り、日本語を学びながら生活上の情報を提供することができた。また母国語での日本語教室の開設においては、フィリピンとインドネシアが新たに開設され、浜松市のみならず磐田市、袋井市に在住する外国人にも広く教室を開講することができた。
--------------------------------------	---

3. 各取組の報告

取組1

取組の名称		外国人住民の社会参画に向けた日本語教育スキームの確立のための委員会							
取組の目標		外国人住民のキャリアデザインと社会参画に至るまでの教育スキームの確立を目指すことを目標とする							
取組の内容		近年、リーマンショック以降外国人人口の減少は見られるが、日本に滞在する外国人の長期化が進んでいる。なかでも派遣・請負の雇用形態から正社員雇用を希望する外国人も増えてきており、彼らのキャリアデザインに対する教育カリキュラムが必要であると考え。こうしたことから、生活者のための日本語教育カリキュラム案や平成27年度事業におけるカリキュラム案を精査しつつ、来日後から適応できる教育スキームの確立を目指す。そのため、外国人住民の社会参画に向けた日本語教育スキームの構築に向けた委員会を、外国人を雇用する企業、キャリアデザインの専門家、日本語教育の専門家、外国人リーダーらと共に構成し、外国人に対するカリキュラム開発を進めていく。							
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動								
取組による体制整備		外国人を雇用する企業と連携することにより、今後外国人を雇用或は正職員への登用を考える企業や、外国人に対する日本語教育支援を行う機関が活用できるよう、キャリアステップアップシート(案)をまとめる。							
取組による日本語能力の向上									
参加対象者		学識経験者2名、企業関係者2名、外国人リーダー2名、外国人支援者(静岡県国際交流員含む)2名、ヒアリング対象者4人				参加者数 (内 外国人数)		8人 (3人)	
広報及び募集方法		多文化共生や日本語教育という視点を有し、外国人のキャリア形成に対して知見のある人を事務局が指名する							
開催時間数		総時間 12時間(空白地域 時間)							
主な連携・協働先		静岡県、浜松市、平野ビニール工業株式会社、聖隷福祉事業団							
開催場所		グローバル人材サポート浜松研修室、和合愛光園(ヒアリング調査)、伸こう福祉会(ヒアリング調査)							
参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
						1			2
		日本5 ヒアリング対象者: 中国1、フィリピン2、ペルー1							

実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	出席者数	取組テーマ	内容	出席者名	
1	平成28年5月23日 15:00～17:00	2	グローバル人材サポート浜松研修室	7	事業目的の共有	事業目標の設定 多文化コンシェルジュの活躍に関する情報共有	宇賀田栄次、神吉宇一、青柳雄大、平野利直、金城アイコ、バルマバメラ、堀 永乃	
2	平成28年6月27日 15:00～17:00	2	グローバル人材サポート浜松研修室	8	スキーム案の策定	人材教育スキーム案の提示と内容(在り方)に関する協議 在住外国人のキャリア形成について協議	宇賀田栄次、神吉宇一、青柳雄大、平野利直、金城アイコ、バルマバメラ、宮本ルーカス、堀 永乃	
3	平成28年9月26日 15:00～17:00	2	グローバル人材サポート浜松研修室	7	キャリア形成と日本語教育	在住外国人を対象としたヒアリング調査の実施と分析内容報告 キャリア教育とステップアップシートについて	宇賀田栄次、神吉宇一、青柳雄大、平野利直、バルマバメラ、宮本ルーカス、堀 永乃	

4	平成28年11月28日 15:00～17:00	2	グローバル人財サポート浜松研修室	5	キャリア教育としての日本語教育とスキーム案	成果物の内容に関する協議 ステップアップシートの見直し	宇賀田栄次、青柳雄大、金城アイコ、宮本ルーカス、堀 永乃	
5	平成29年1月23日 15:00～17:00	2	グローバル人財サポート浜松研修室	7	キャリア教育としての日本語教育とスキーム案	キャリアステップアップシート(案)の作成と報告書の内容分担	宇賀田栄次、神吉宇一、青柳雄大、平野利直、金城アイコ、宮本ルーカス、堀 永乃	
6	平成29年3月13日 15:00～17:00	2	グローバル人財サポート浜松研修室	8	成果物の評価と課題	報告書内容に関する見直しと評価、課題について	宇賀田栄次、神吉宇一、青柳雄大、平野利直、金城アイコ、パルマバメラ、宮本ルーカス、堀 永乃	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第3回 28年9月26日】

当事者に対してヒアリング調査をすることで、ロールモデルをいくつか作成し、それを基準に「キャリア形成の意識」と「労働力(技術力)がどの程度日本語能力とリンクしているか」について分析していくことに決めた。

○取組事例②

【第5回 29年1月30日】

各委員の経験と知見から、外国人材が就職してから様々な職業能力を習得するまでのステップアップシートの作成を行った。看護師のテクニカルラダーを参考に、時間軸を整えて、「知識」「技術」「記録」「態度」で分類し、初任者がどのくらいの期間で何ができるようになるのかを明確化し、必要な教育とそれにより習得できる能力を提案できるようにした。



(2) 目標の達成状況・成果

教育スキームの確立に向けて、ステップアップシートを提示することができるようになった。ステップアップシートは、あくまでも素案であり、職種によっては期間の長短や要求内容に加减がなされることが考えられる。しかしながら、このシートによって、外国人のポートフォリオになるだけでなく、彼らを採用した企業にとっても教育の評価基準とすることができる。そのため、外国人への日本語教育や学習支援を行う者と企業側が、このシートを基に外国人の能力向上を図る工夫や対策を行うことが可能である。さらに、本取組に参画した各委員からそれぞれの視点で「外国人のキャリア教育」について考察をまとめた。日本語教育のみならず多方面からの有識者、当事者が関わりあったという点では、大きな成果を得られたと考える。

(3) 今後の改善点について

別添報告書のとおり、まだ本事業ではステップアップシート素案を提示したまでである。そのため今後は、ステップアップシートを活用して、段階ごとに必要となるであろう教育の中身を検討し、事例として挙げていく必要があると考える。事例を集め、まとめあげることで、教育スキームの確立を目指していきたい。

＜取組2＞									
取組2	取組の名称		多文化コンシェルジュ育成講座						
	取組の目標		高い日本語能力を有する外国人が、日本人と外国人市民との懸け橋のような存在になるために必要な日本語能力（プレゼンテーション能力、対外折衝能力、文章作成能力）及び日本文化習慣について知識を習得し、多文化共生に資する人材になることを目標とする。また、同国出身の後輩外国人に対する日本語教育が行えるよう専門的な日本語を学び、自助共助のコミュニティリーダーの育成に努める。						
	取組の内容		多文化コンシェルジュに必要な能力として、日本語でのプレゼンテーション能力、対外折衝能力、文章作成能力が必要となる。特に、高い日本語能力を有する外国人によると日本語での日常会話はできるものの、日頃自分が考えたことを文字化する、文章化することが難しいということから、彼らが苦手と思われる日本語での活動が行えるようにする講座を実施。また、日本人コミュニティの懸け橋として必要となる日本の文化習慣等に関する知識の習得と異文化理解を学ぶ機会を提供した。 さらに、同国出身の後輩外国人に対して母国語を活用した日本語教育が行えるよう、専門的な日本語に関する知識と技術の習得を目指した。						
	☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動							
	取組による体制整備		多様な機関で開発されてきた平成26年度のカリキュラムを基に、本年度はさらに多文化コンシェルジュを育成するために必要なカリキュラムの内容とし、講師には日本語教育の専門家だけでなく、企業から講師を迎え、地域協働の体制を構築した。また、市内の私立高校における講座との連携を行い、成果がわかるようにした。						
	取組による日本語能力の向上		中部協働センターでの「異文化理解講座」と西遠女子学園高等学校での「グローバル教室」での講師を務めることにより、受講者は自身の日本語能力の向上と学習の成果が客観的にわかるようになった。						
	参加対象者		外国人コミュニティリーダー候補者、外国にルーツのある大学生 や外国人支援を行っている大学生			参加者数 (内 外国人数)		15人 (11人)	
	広報及び募集方法		浜松国際交流協会と静岡県国際交流協会の機関誌、当法人のホームページとSNS、外国人コミュニティへのチラシ配架						
	開催時間数		総時間 30時間(空白地域 時間)						
	主な連携・協働先		浜松市、公益財団法人浜松国際交流協会（広報）、静岡県国際交流協会（広報）、中部協働センター（機会創出）、西遠女子学園（機会創出）、株式会社はまざう（機会創出）						
開催場所		グローバル人財サポート浜松研修室							
参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
			3			2	4		2
		日本 5人							
実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容		指導者名	補助者名
1	平成28年7月2日 (土) 13:30～16:30	3	グローバル人財サポート浜松研修室	5	多文化コンシェルジュの役割と意義	多文化コンシェルジュとは何か？どのような活動を期待されているのかを共有し、自身の未来像を想定した		堀 永乃 宮本ルーカス	鳥元麻由香
2	平成28年7月9日 (土) 13:30～16:30	3	グローバル人財サポート浜松研修室	10	自己PRの書き方とプレゼンテーション	自分自身について振り返り、自身の長所や経験、自国の文化などをどのように伝えるのかを学ぶ		増田由美	光岡香奈子 杉本里美
3	平成28年7月23日 (土) 13:30～16:30	3	グローバル人財サポート浜松研修室	14	日本語の教え方① ～何をどのように教えるのか～	子どもと大人の日本語教育の違いやニーズ把握の重要性と対象者ごとの目標値の設定と体制について考えた。		石井恵理子	鳥元麻由香 杉本里美
4	平成28年7月30日 (土) 13:30～16:30	3	グローバル人財サポート浜松研修室	5	日本語の教え方② ～外国人が間違いやすい文法～	学習経験者として自身の学習歴を振り返り、外国人が間違いやすい文法について学ぶ		原沢伊都夫	鳥元麻由香 杉本里美
5	平成28年8月6日 (土) 13:30～16:30	3	グローバル人財サポート浜松研修室	5	日本語の教え方③ ～教案・教材の作り方～	具体的に内容をわかりやすく教えるためには（伝えるためには）、どのような工夫が必要なのかを実践的に学ぶ		鈴木淑恵 坂東麻子	鳥元麻由香 杉本里美
6	平成28年8月27日 (土) 13:30～16:30	3	グローバル人財サポート浜松研修室	5	特殊音の書き方 教室活動を考える	誤植の多いカタカナ表記やオノマトベなど、間違いやすい特殊音の書き方を学ぶ。また、授業の流れを学ぶ。		増田由美	鳥元麻由香 杉本里美
7	平成28年9月3日 (土) 13:30～16:30	3	グローバル人財サポート浜松研修室	15	社会人マナー	挨拶、名刺交換、お辞儀、お茶の飲み方といった一連の社会的マナーを学ぶ		山下純乃	鳥元麻由香

8	平成28年9月17日 (土) 13:30~16:30	3	グローバル人財サポート浜松研修室	15	模擬授業	西遠女子学園での講座を担当するにあたり、「浜松の魅力」をテーマに受講者が発表する内容を決め、準備を行う。	西川寛之	鳥元麻由香 金丸幸稔
9	平成28年9月24日 (土) 9:30~12:30	3	西遠女子学園	9	グローバル講座 「外国人から見た浜松の魅力」	受講者がリレー形式になり、浜松の魅力をテーマにスピーチを行う。	堀 永乃	金丸幸稔

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第3回7月23日(土)】

様々な受講者に応じた日本語学習支援について考えた。受講者の「生活の質」を向上させるためには、どのようなことが必要なのか、今あるニーズ分析だけではなく、これから目指すところに行くまでのプロセスを考慮した学べる体制の整備が必要であることを学んだ。この回では、多文化コンシェルジュ候補者のみならず、日本語教育を学ぶ大学生や日本語教師の参加もあり、意見交換も活発になされていた。



○取組事例②

【第8回 平成28年7月17日】

多文化コンシェルジュに求められる活動の一つに、日本人向けに外国人の視点による考え方や見方について発表することが求められる。そこで、今後、講師として活躍していくために「外国人の視点から見た浜松の魅力」を、日本人の高校生向けに伝えていくために、どのような内容がいいのか、そのための準備は何をしたらいいのかといった具体的な活動内容を考えた。話の目的や対象者を絞り何を伝えたいのかなど、実践的にステップを踏んで学んでいったため、受講者は自身の役割と求められる内容を十分に理解したうえで、発表準備をすることができるようになった。

また、3回目以降から大学生が参加するようになったことで、クラス内が非常に若い世代で構成されるようになり、大学生が外国出身の多文化コンシェルジュの活動をサポートするような場面も生まれてきた。



(2) 目標の達成状況・成果

受講者が技能実習生、留学生、大学生(日系人学生含む)と様々な背景を持つ20代の若者たちであったことは、本事業が若い世代におけるキャリアデザインに寄与するものであったと考える。また、学生間の異文化間交流も深められたことや、多文化コンシェルジュとして日本の高校生や大学生に自身の文化や経験を語る機会が創出できた。このことは、浜松市という地域におけるグローバル化が若者世代のなかに広がりを見せていることを表すほか、若い世代の社会参画を促進する仕組みとして、本事業のプログラムが大きな役割を担っていることも表している。こうしたことから、本来目的としてあった、地域に活躍している外国人の担い手の高齢化や特定の人に属するものから、若い世代を地域の担い手とする事業へと発展した成果の表れであると考えられる。

(3) 今後の改善点について

多文化コンシェルジュの育成には、ノウハウが確立された。しかし、今後は彼らの活躍の創出をしていかなければ、外国人が社会参画していくうえでの達成感や自己承認欲求を満たされる、自己実現を果たすことはできないだろう。ただし、彼らが活躍していくまでにはおおよそ3年の教育スパンがかかることもあり、彼らをサポートしていく恒常的な体制づくりが求められる。また、多文化コンシェルジュとして修了証を得るには80%以上の出席が必要であるため、仕事の都合等で欠席を余儀なくされる受講者のことを考えると講座の期間に余裕が必要であるかもしれない。さらに、「多文化コンシェルジュ名鑑」に掲載されたくないという者もいるため、掲載に理解を求めていく意識啓発も必要だろう。

＜取組3＞										
取組3	取組の名称		多文化コンシェルジュによるバイリンガルを活用した日本語教室の設置運営事業							
	取組の目標		多文化コンシェルジュによる外国人のための外国人による母国語を活用した日本語教室を開講し、来日したばかりの外国人や日本語学習の機会に乏しかった外国人が、母国語で日本語と日本文化（習慣、労働観）を学び、日本社会への早期適応と言語能力向上による生活上への不安を軽減することを図る。							
	取組の内容		多文化コンシェルジュ（過去2年分を含む）の活躍の先として同国出身者で日本語能力が乏しい者に対して、母国語を活用した日本語学習の機会を提供する。内容としては、生活上に早期習得すべき日本語会話や表現を学ぶための「生活の日本語」、日常生活のなかで多々生じる異文化上のトラブルを軽減するための「日本の文化と習慣」などを学べる教室を開設した。教室は、ブラジル、インドネシア、フィリピンの3ヶ国出身者を対象に行った。							
	☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動								
	取組による体制整備		日本語指導にあたるのは、日本人の日本語教師とバイリンガルの多文化コンシェルジュであることから、日本人指導者と外国人指導者の連携・協働によるもの。従来のような日本語教室とは異なり、バイリンガル教師は補助的な活動ではなく、日本人指導者と主体的に教室運営に携わっていく。							
	取組による日本語能力の向上		受講者は母国語を活用して、日本での生活において必要最低限の日本語を習得することができた。また指導にあたる多文化コンシェルジュが先輩外国人として、後輩同国出身者に様々な助言をすることから、個人的な状況であっても、受講者がまさに今必要としている日本語コミュニケーションの手法を習得することができた。多文化コンシェルジュは、補助者や関係機関との打合せ等で必要な日本語を駆使して交渉を行ったり、準備をしていたため、社会参画上で日本語能力をより高めることができた。							
	参加対象者		インドネシア人、フィリピン人、ブラジル人				参加者数 （内 外国人数）		74人 （74人）	
	広報及び募集方法		コーディネーターによるSNS、外国雑貨店でのチラシ配布、小学校経由での保護者へのチラシ配布、企業経由での案内							
	開催時間数		総時間 60.5時間（空白地域 時間）							
	主な連携・協働先		浜松市立南の星小学校、浜松市消防本部、平野ビニール工業株式会社、遠州鉄道株式会社							
	開催場所		ザザシティ浜松（ここいーら）、グローバル人材サポート浜松研修室、五島協働センター、平野ビニール工業株式会社社員食堂、インドネシアレストラン							
参加者の出身・国別内訳 （人数）		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル	
						37	17		20	
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容		指導者名	補助者名	
1	平成28年8月3日（水） 19:00～21:00	2	五島協働センター	2	ブラジル人のための親子型日本語教室	地域情報の取り方（パス）		宮本ルーカス	金城アイコ 堀 永乃	
2	平成28年8月10日（水） 19:00～21:00	2	五島協働センター	9（4）	ブラジル人のための親子型日本語教室	学習ニーズの把握 お疲れ様でしたとご苦労様の違い		堀 永乃	宮本ルーカス 金城アイコ、高橋葉月、夏目朱梨、中山杏奈	
3	平成28年8月24日（水） 19:00～21:00	2	五島協働センター	5（6）	ブラジル人のための親子型日本語教室	TPOに合った自己紹介と挨拶		宮本ルーカス	堀 永乃 金城アイコ、岩井柚樹、藤田早恵佳、ミウラサユリ	
4	平成28年8月31日（水） 19:00～21:00	2	五島協働センター	6（11）	ブラジル人のための親子型日本語教室	防災メールの登録		宮本ルーカス	堀 永乃 金城アイコ、坂東麻子、林那奈、桑野響、村木愛梨	
5	平成28年9月6日（火） 19:00～21:00	2	五島協働センター	5（6）	ブラジル人のための親子型日本語教室	避難所・災害時について考える		宮本ルーカス	金城アイコ、坂東麻子、ミウラサユリ、阿部楓子、鈴木陽介、高橋由多	
6	平成28年9月13日（火） 19:00～21:00	2	五島協働センター	8（12）	ブラジル人のための親子型日本語教室	防災イラストカード／119番通報		堀 永乃 白脇消防署	金城アイコ 宮本ルーカス、坂東麻子、ミウラサユリ、金丸幸稔、鈴木陽介	

7	平成28年9月20日(火) 19:00～21:00	2	五島協働センター	0	ブラジル人のための親子型日本語教室	台風警報のため休講		
8	平成28年9月27日(火) 19:00～21:00	2	五島協働センター	5 (3)	ブラジル人のための親子型日本語教室	問診票の書き方	金城アイコ	堀 永乃 宮本ルーカス、坂東麻子、ミウラサユリ、阿部楓子、金丸幸稔、中山杏奈、林那奈、宮城ユカリ
9	平成28年10月4日(火) 19:00～21:00	2	五島協働センター	3 (3)	ブラジル人のための親子型日本語教室	看護師とのやり取り(皮膚科)	金城アイコ	堀 永乃 宮本ルーカス
10	平成28年10月11日(火) 19:00～21:00	2	五島協働センター	8 (6)	ブラジル人のための親子型日本語教室	医者とのやり取り(小児科)	宮本ルーカス	金城アイコ
11	平成28年10月25日(火) 19:00～21:00	2	五島協働センター	5 (3)	ブラジル人のための親子型日本語教室	総復習1	金城アイコ	堀 永乃 宮本ルーカス
12	平成28年11月1日(火) 19:00～21:00	2	五島協働センター	4 (8)	ブラジル人のための親子型日本語教室	所在、地図の見方	宮本ルーカス	堀 永乃 金城アイコ
13	平成28年11月6日(日) 14:00～16:00	2	五島協働センター	4 (8)	ブラジル人のための親子型日本語教室	バスの乗り方・降り方	遠州鉄道(株) 堀 永乃	宮本ルーカス 金城アイコ
14	平成28年11月8日(火) 19:00～21:00	2	五島協働センター	4 (8)	ブラジル人のための親子型日本語教室	意見・気持ち1	宮本ルーカス	金城アイコ
15	平成28年11月15日(火) 19:00～21:00	2	五島協働センター	4 (8)	ブラジル人のための親子型日本語教室	意見・気持ち2	金城アイコ	宮本ルーカス
16	平成28年11月22日(火) 19:00～21:00	2	五島協働センター	4 (8)	ブラジル人のための親子型日本語教室	カタカナ表記と語彙	宮本ルーカス	金城アイコ
17	平成28年11月29日(火) 19:00～21:00	2	五島協働センター	2 (6)	ブラジル人のための親子型日本語教室	総復習2	宮本ルーカス	金城アイコ
18	平成28年12月13日(火) 19:00～21:00	2	五島協働センター	2 (6)	ブラジル人のための親子型日本語教室	モノの名前、形、色	金城アイコ	堀 永乃
19	平成28年12月20日(火) 19:00～21:00	2	五島協働センター	3 (7)	ブラジル人のための親子型日本語教室	あげます・もらいます	堀 永乃	金城アイコ 宮本ルーカス
20	平成28年12月27日(火) 19:00～21:00	2	五島協働センター	4 (8)	ブラジル人のための親子型日本語教室	嬉しかったことを話す 感謝の意を述べる	堀 永乃	金城アイコ 宮本ルーカス
21	平成29年1月17日(火) 19:00～21:00	3	五島協働センター	1	ブラジル人のための親子型日本語教室	文法のまとめ1～一日の流れ	堀 永乃	金城アイコ
22	平成29年1月24日(火) 19:00～21:00	2	五島協働センター	4	ブラジル人のための親子型日本語教室	文法のまとめ2～準備を表す言葉	堀 永乃	金城アイコ 宮本ルーカス
23	平成29年1月31日(火) 19:00～21:00	2	五島協働センター	4	ブラジル人のための親子型日本語教室	文法のまとめ3～振り返り	堀 永乃	金城アイコ 宮本ルーカス
実施内容								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成28年6月11日(土) 14:00～16:00	2	ザザシティ浜松	8	インドネシア人のための日本語教室	日本とインドネシアの文化の違い 日本人宅への訪問の仕方	伊藤真弓 スニョト	近藤佐代子
2	平成28年7月16日(土) 14:00～16:00	2	グローバル人材サポート浜松研修室	6	インドネシア人のための日本語教室	日本人の友だちを作ろう 旅行の申込みの仕方	伊藤真弓 スニョト	近藤佐代子
3	平成28年8月16日(木) 8:30～18:00	2	山梨県	16	インドネシア人のための日本語教室	友だちと日本語を使って仲良くなろう	伊藤真弓	近藤佐代子 スニョト
4	平成28年8月27日(土) 14:00～16:00	2	ザザシティ浜松	7	インドネシア人のための日本語教室	病院と美容院	伊藤真弓 スニョト	近藤佐代子
5	平成28年10月1日(土) 14:00～16:00	2	TUBE	13	インドネシア人のための日本語教室	友だちと仲良くなろう	伊藤真弓	近藤佐代子 スニョト

実施内容								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成29年2月4日 (土) 14:00～15:30	1.5	グローバル人財サポート浜松研修室	5	フィリピン人のための日本語教室	一日の生活の流れについて日本語で表現し、状況を書くことができるようになる	堀 永乃	寺田アリス
2	平成29年2月21日 (火) 17:30～19:00	1.5	平野ビニール工業株式会社	41	フィリピン人のための日本語教室	継続状態を表す表現を学び、パーティー会場で様々な行動をしている人の様子を表すことができるようになる	堀 永乃	寺田アリス
3	平成29年2月28日 (火) 17:30～19:00	1.5	平野ビニール工業株式会社	37	フィリピン人のための日本語教室	災害時に必要な日本語表現を学び、緊急事態の対応や人を助けるための活動について知る	堀 永乃	寺田アリス

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第13回 28年11月6日】

子どもたちが自分一人でもバスに乗ることができるようになり、保護者の大人たちもバスの乗降方法を知ることによって家族の行動範囲を広げるためのバス教室を行った。まず遠州鉄道株式会社のバス担当者による乗降の仕方と車内ルールを学び、実際にバスに乗って模擬体験を行った。模擬体験の際は、路線バスのルートを実際にバスに乗って走り、車内アナウンスを聞き取ったり、車内の漢字表記や案内を読むことで、バスのなかを実体験した。特に停車ボタンを押す前のバス停の名前をアナウンスで聞き取り、ボタンを押す行為に対して受講者は緊張していたようだが、乗る練習、さらに降りる練習を自身の自宅近くのバス停で行うことができたので、受講者の達成感は著しいものであった。これに対して連携・協働をした遠州鉄道の担当者からも評価を得られ、引き続きこうした活動を進めていくことを約束されたことは本事業が地域ニーズにあったことの表れだと考える。

なお、本講座では、子どもたちが通う小学校や地域の消防署などとも連携し、親子型で日本語を学びながら生活情報を習得することができた。



○取組事例②

【第3回 28年7月16日】

インドネシア人のための日本語教室では、日本人がインドネシア人に対して不思議だと思う活動(例:ノロンクロンなど)を紹介して、インドネシア人に日本人の価値観を伝えた。3回目には、日本人と共にバス旅行に実際に参加して、観光地で日本語を使って交流を深めることを目的としたバス旅行を実施するため、2回の今回にどんな内容のバス旅行がいいかを調べ、みんなで決めた。

この回にはNHKの取材もあり、インドネシア人の状況を県内に広く伝えることもできた。



○取組事例③

【第3回 29年2月21日】

フィリピン人を多く雇用している企業と連携し、企業内日本語教室を開催した。フィリピン人受講生の多くが技能実習生で、日本人配偶者の定住フィリピン人も受講した。

当初はフィリピン人のみを対象としていたのだが、受講希望のブラジル人とペルー人も参加し、日本語学習の需要が高いことを企業側に提示することができた。

また、学習ニーズを把握するため、「生活者としての外国人」のための日本語教育事業の生活上の行為の一覧から学びたい内容を選択するアンケートを実施。

これにより外国人の学習ニーズを確認してみると、「安心・安全」の確保のために日本語を学びたいという理由が見えてきた。



(2) 目標の達成状況・成果

・ブラジル人のための日本語教室では、地域在住の外国人に情報提供をするにあたり小学校が協力をしてくれたことと大学生ボランティアが親子型教室の運営にあたり補助に入ってくれたことで、子どもたちの学習に対する保護者ニーズを把握することもできた。そのため、当初は10回で実施を終了する予定であったが、保護者と子どもたちからの要望が強く年明けまで実施することになった。このことは、親子型で学ぶ体系の教室開催へのニーズが高いことを表している。また、この講座では消防署や企業など地域を構成する様々なファクターの協働・連携による体制が構築できた。保護者は、教室終了後、次年度の教室が開講されるまでの間、バレーボールができるよう会場を借りようと日本語で交渉を行っていた。地域に外国人住民が参画しようとする動きを生み出すこともできた。

・インドネシア人のための日本語教室でも、学習ニーズをコンシェルジュが十分なヒアリングを実施して把握することができた。そのため、彼らが学びたい回には、必ず参加ができるように体制を整えていた。アンケートでは、日頃どのような日本語に疑問を持っているのかなども分析できた。

・フィリピン人のための日本語教室では、学習者間の口コミによって国籍を超えて受講者が多く集まった。このことは、当事者のなかでいかに日本語学習に対するニーズがあるのかを指し示すこともできたとし、教室の評価を企業に直接伝えられたのが大きな成果であった。

(3) 今後の改善点について

・教室を運営することのできるコーディネーターには自身の資質や生活背景が大きな要因になる。キーパーソンと言える人材であったとしても、コミュニティとの接点がなかったり、生活状況が不安定だと、学習者を集められないどころか教室を開講できないという問題が生じる。コーディネーターになるまでには2年以上の人材教育が必要であり、その人財をサポートする人材もまた必要である。しかしながら、同じ目標と方向性を見ることのできるようになるには、対話にかけられる時間が十分に確保されないと厳しい。こうしたことから、バイリンガル指導者の運営補助者がいない限り、こうしたバイリンガルを活用した教室を開講することが難しいことがわかった。また、あわせて、バイリンガル指導者によると母国語がわかるのでニーズを把握するも、「そもそも学習意欲がない」外国人に対してのアプローチが困難であるという。日本語能力が必要な外国人は多く見かけるが、彼らは短期労働者であったり、どこの窓口にも通訳がいるなど日常生活上日本語の不自由さを感じないという理由から日本語を学ぶ必要性を感じていないという。今後は、こうした外国人住民にも日本語を学ぶ必要性を伝えていくため、キャリア教育としての日本語教育の実践が求められる。

・当初はテキストの開発も計画していたが、毎回出席者が異なることや日本語指導における経験が浅いバイリンガル指導者にとっては、既存のテキストを活用することで精いっぱい状況もあり、今後は、バイリンガル指導者ならではの利点を生かした成果物も作成していきたい。

＜取組4＞									
取組4	取組の名称		多文化コンシェルジュによる日本語教育シンポジウム「一億総活躍！外国人の自己実現とキャリアデザイン」						
	取組の目標		多文化コンシェルジュが日本人市民に対して、浜松や静岡県の実未来のために必要なこと、自身ができることは何かを提言するシンポジウムを開催し、広く市民に対して「日本語教育を地域全体の課題として考えることと多文化共生」を意識啓発していく。						
	取組の内容		多文化コンシェルジュの企画運営によるシンポジウムを開催し、本取組の成果としていく。具体的には、キャリアデザインに関する専門家を講師に迎えた講演と取組3の活動報告を兼ねて、パネルディスカッションを行った。また、これまでの成果から外国人市民として、当事者として、外国人人材が地域を活性化させていく力があることを提言していくものとする。 さらに、日本語能力を有する外国人人材が地域を豊かにしていく活動を発信することを目的に、外国人技能実習生による写真展を同時開催した。参加者に対して、外国人の社会参画のためには、地域が総括的に日本語教育に携わる必要があること、さらに外国人市民が地域の文化創造も担っていることなどについて理解を深めていただいた。						
	☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動							
	取組による体制整備		シンポジウムの登壇者に静岡県西部地域で活躍する外国人コミュニティのリーダーを迎えることにより、多文化コンシェルジュと他団体の外国人のネットワーク構築を整備する。また、シンポジウムの運営に大学生を加え、これまで多文化共生や外国人支援、日本語教育に関わったことのない学生の意識啓発につなげ、多様な人の関わりによる連携体制を構築していく。						
	取組による日本語能力の向上		多文化コンシェルジュにとっては、日本語で司会進行をしたり、パネルディスカッションで意見を求められたりしたので、その際に必要な日本語をブラッシュアップする機会になった。						
	参加対象者		外国人市民、日本語学習支援者、多文化共生に興味のある方	参加者数 (内 外国人数)		50人 (11人)			
	広報及び募集方法		浜松国際交流協会と静岡県国際交流協会の機関誌への掲載、県西部地域の国際交流協会への案内、関係各所へのチラシ配架など						
	開催時間数		総時間 3時間(空白地域 時間)						
	主な連携・協働先		浜松市、株式会社はまぞう、株式会社リコージャパン、静岡新聞社・静岡放送、中日新聞						
	開催場所		浜松市市民協働センター						
参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
		1	3		1		4		2
		日本39人							
実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容		指導者名	補助者名
1	平成29年2月18日 (土) 13:30～13:50	20分	浜松市市民協働センター	50	事業報告	多文化コンシェルジュ育成のこれまでの取り組みについてまとめ、本事業の成果を報告した。		西原鈴子	鈴木淑恵 杉本里美 鳥元麻由香
2	平成29年2月18日 (土) 13:50～15:00	70分	浜松市市民協働センター	50	講演	キャリアデザインと日本語教育をテーマに、外国人のキャリア教育を見据えた日本語教育の必要性を伝えた。		宇賀田栄治	鈴木淑恵 杉本里美 鳥元麻由香
3	平成29年2月18日 (土) 15:00～16:30	1.5	浜松市市民協働センター	50	パネルディスカッション	取組3の「インドネシア人のための日本語教室」と「ブラジル人のための日本語教室」について活動紹介を行い、住民や企業が連携協働して行う日本語教育の支援体制の構築について会場一体となって考えていった。		池上重弘 伊藤真弓 榊原正之	鈴木淑恵 杉本里美 鳥元麻由香
4	平成29年2月18日 (土) 13:30～17:00	3.5	浜松市市民協働センター	50	写真展	インドネシア人のための日本語教室に通っていた技能実習生による写真展を企業と連携して実施。		スシロ	鈴木淑恵 杉本里美 鳥元麻由香

(2) 目標の達成状況・成果

アンケートの結果から、参加者が内容に対して非常に満足していることがわかった。講演では、キャリア教育としての日本語教育について、会場一体となって考えることができた。またパネルディスカッションでは、外国人住民の担い手は次世代に引き継がれており、新たな文化創造が進んでいることも確認することができた。今回のシンポジウムでは、日本語教育の関係者よりも企業関係者や一般市民の参加が多かったことは、日本語教育を社会に拓く意味で大きな成果であったと思う。

(3) 今後の改善点について

より多くの市民に広く活動を知ってもらい、外国人市民の日本語教育の推進を地域ぐるみで進めていけるようにしていきたい。これからは、もっと企業にも働きかけて、今後増えてくるであろう留学生や技能実習生を地域で活躍できるような仕組みを構築できるようにしたい。そのためには、本シンポジウムの内容をより多くの市民に周知していくことをより強化していかなければならない。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

・静岡県西部地域に在住する外国人の自己実現とキャリア形成のための日本語教育スキームの構築を目指す。そして高い日本語能力を有する外国人が多文化コンシェルジュとして、同国出身者の後輩外国人のために日常生活の情報や母国語で日本語を学ぶことができる機会の提供ができるようにし、多文化コンシェルジュの育成と彼らの実践を通して、互助共助の外国人コミュニティの構築と外国人の社会参画につなげていく。さらに、本事業を地域を構成する企業、行政、NPOなどと連携・協働することで、社会包括的な外国人に対するキャリア形成のための日本語教育支援の仕組みを確立していく。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

・外国人労働者の初任者を対象としたステップアップシート(案)を開発し、かつキャリア教育としての日本語教育の必要性について各方面の専門家と総括的に考えていくことができたこと。
・外国人受講者のアンケートから、教室に対する満足度がとても高かったことはわかる。また、ニーズの把握のために「生活者としての外国人」のための日本語教育カリキュラム案を参考に調査を行い、多文化コンシェルジュが同国出身者の学習ニーズを分析でき、ニーズに合った教室を開講できた。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

・委員への就任などで静岡県や浜松市の行政の協力が得られた。地元企業や高校の連携・協働により実践的な活動をリアルに行うことができた。これにより外国人学習者は日本語能力の習得や生活習慣の学びに対して達成感を得られた。その成果は、バイリンガルを活用した日本語教室の回数を予定していたよりも多く開催することになったり、受講者が口コミで教室情報を伝えていってくれたことに表れている。また、近年、増加傾向にあるインドネシア人やベトナム人の留学生や技能実習生の活躍を見られたことは大きな成果であったと思う。長期滞在を目的とした定住外国人だけでなく、短期滞在者の外国人であっても地域を盛り立てることができることを企業と共に表すことができたことも成果である。

(4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

・事業についてNHKや地元新聞社に取材を依頼し、活動内容に関して県内に情報発信することができた。
・シンポジウムの開催については、県や市の国際交流協会に情報提供の協力をしてもらったが、実際には口コミでの参加が多かった。グローバル人材サポート浜松や担当者、登壇者のFacebookを通して情報を発信した。

(6) 改善点、今後の課題について

・フィリピン人のための日本語教室はニーズがあるものの、開設までに時間がかかってしまったり、うまく運ばなかった。今回はフィリピン人を多く受け入れている企業の協力があつたが、来年度は対象地域を横に広げて、地域の国際交流協会や日本語学校とも連携をはかっていきたい。
・インドネシア人のための日本語教室のコーディネーターはこの春で帰国してしまうため、インドネシア人コーディネーターを新たに探していかなければならない。
・バイリンガル指導者が独り立ちするためには、さらに授業運営に関する方法や教材使用の工夫など、より専門的な学びも必要である。また、バイリンガル指導者によるオリジナル教材の開発ができなかったため、今後はバイリンガル指導者によるチームを編成するなどして、そこも取り組めるようにしなければならない。

(7) その他参考資料

取組1委員会報告書、教室アンケート、シンポジウムアンケート、事業評価アンケート、新聞記事、教室チラシ、シンポジウムチラシ